キネマの楽しみ

大正から昭和の初期にかけては、映画が娯楽の中心でした。新宿には洋画封切りの武蔵野館やセカンド館の昭和館、日活封切りの帝都座や松竹館など数多くの映画館が集まり、たいへんなにぎわいをみせていました。

無声映画と武蔵野館

特に武蔵野館は、まだ新宿が場末であった大正９年（1920）に、地元の商店主が人々を呼べる文化的な町にしようと資金を出しあって建てた映画館で、700席を擁する当時としてはかなり大きな建物でした。やがて良い映画を上映する映画館として洋画ファンに定着し、大正12年の関東大震災後は、被害も少なかったため連日満員の盛況となりました。

その頃はまだ無声映画の時代で、日本では字幕と場面の状況を声色よろしく解説してくれる説明者（弁士）がつきました。その映画説明者の良し悪しが映画の印象を左右するほどで、映画館に通う人々はそこの映画館の説明者のファンとして見にくることも多かったのです。

武蔵野館では、大正14年に主任弁士として徳川夢声を迎えています。夢声は武蔵野館に初めて出た時の感想を次のように書いています。「どうもすごい入り、一階席はまるで画面の見えない前までギッシリ、二階席も三階席も人間の鈴なり、今にも端っこの方からバラバラッと落ち

新宿駅周辺の映画館（昭和10年頃）

種類	館名	開館日	定員	上映内容	備考
邦画	①新宿松竹館	大正13年12月31日	724	松竹封切	
	②新宿第一劇場	昭和４年９月７日	1,048	松竹系実演劇と映画	当初は歌舞伎座として松竹少女劇場や青年歌舞伎を上演していたが、後に新宿第一劇場に改称。
	③新宿劇場	昭和４年12月31日	465	大都封切	マキノ系で開館し、東活映画封切と演芸上演から、各社映画封切、宝塚映画封切、その後大都映画封切となる。
	④帝都座	昭和６年５月１日	1,299	日活封切	５階にダンスホールがあった。
	⑤新宿帝国館	昭和６年12月31日	465	新興封切	大東京開館後は、吉本系の実演も。戦中に新宿花月に改称。
	⑥新宿大東京	昭和10年11月29日	1,151	新興封切	後に東宝封切に、さらに新宿東宝映画劇場と改称。
洋画	⑦武蔵野館	大正９年６月30日	1,145	S・Y封切	
	⑧昭和館	昭和７年12月22日	420	S・Y系	セカンド館。
ニュース映画	⑨朝日ニュース劇場	昭和12年７月１日	352	ニュース・漫画・科学短編	
	⑩新宿映画劇場	昭和12年７月14日	706	東宝系	ニュース専門館で開館し、すぐに東宝系の文化ニュース劇場に。
	⑪光音座	昭和12年12月30日	368	名画・ニュース	三福の四階のダンスホールを改装して映画館に。
	⑫新宿太陽座	昭和13年４月７日	170	名画・短編・ニュース	

＊料金は、セカンド館の普通席30銭程度から、封切り館の特等席１円まで
＊S・Yは松竹洋画興行社宣伝部のこと
＊セカンド館とは、封切り後に安い料金で上映する映画館
＊各映画館プログラム・『キネマ旬報』（昭和10年１月号）・「全国映画館名録」（昭和８、18年）・柴田勝「東京の活動写真（映画）常設館の変遷」より作成